大島青松園

K.Y.・2022/10/26

今日の内容

基本的に大島青松園で撮影した写真に発表者の言葉を添えたスライドばかりです

たぶん、私が下手に説明するよりも、私の視界をある程度は映したそれらを
お見せした方が、まだ伝わると思います。

個人的には瀬戸内国際芸術祭では直島よりも豊島よりも大島が一番良かったです

はじめに——大島青松園について

大島青松園は香川県高松市の沖合、瀬戸内海・大島に位置するハンセン病療養所

位置づけとしては多摩全生園などと同じものになる

瀬戸内海の島にあるハンセン病療養所としては以下
(双方ともに岡山県・長島に所在)

- 長島愛生園
- 邑久光明園

先日、瀬戸内国際芸術祭で大島を訪れたので、そのご報告です

大島にある作品

公式サイトの作品一覧 ※太字は発表者が巡ることのできた作品

- **青空水族館**
- **森の小径**
- **「Nさんの人生・大島七十年」ー木製便器の部屋ー**
- 稀有の触手
- {つながりの家}GALLERY15「海のこだま」
- 歩みきたりて
- 海峡の歌/Strait Songs
- 物語るテーブルランナー in 大島青松園
- 浜辺の歌、月着陸、壁上り
- **{つながりの家}カフェ・シヨル**
- **リングワンデルング**
- **物語る金の豚**
- 声の楔

大島へ行く前に

大島へは**会期中のみ**無料の定期便が運航されている

瀬戸芸参加者は基本的に毎日一回の検温で大丈夫だが、大島に行く場合のみ
改めての検温が必須

2階建ての高速船の1階部(2階は元患者さんたち向け)なので、酔いやすい方は注意

船内・島内では常にマスクを着用すること

また、飲み物を買える場所が平日だと自販機1つだけなので、その点も注意

作品の写真

青空水族館

入口に立っている海賊

入口

入口(その2)

涙する人魚。
悲しいけど、印象的な作品でした。

魚の絵画作品。

立体作品。ヘラヤガラがモチーフか？

たぶん漂着したゴミで作った作品。紐をひくと ……。

海藻標本でできた作品

海藻標本でできた作品

海藻標本でできた作品

森のような、
海底のような

森で採取した植物を乾燥させて作品に使っている

松ぼっくりや、種子

窓の景色

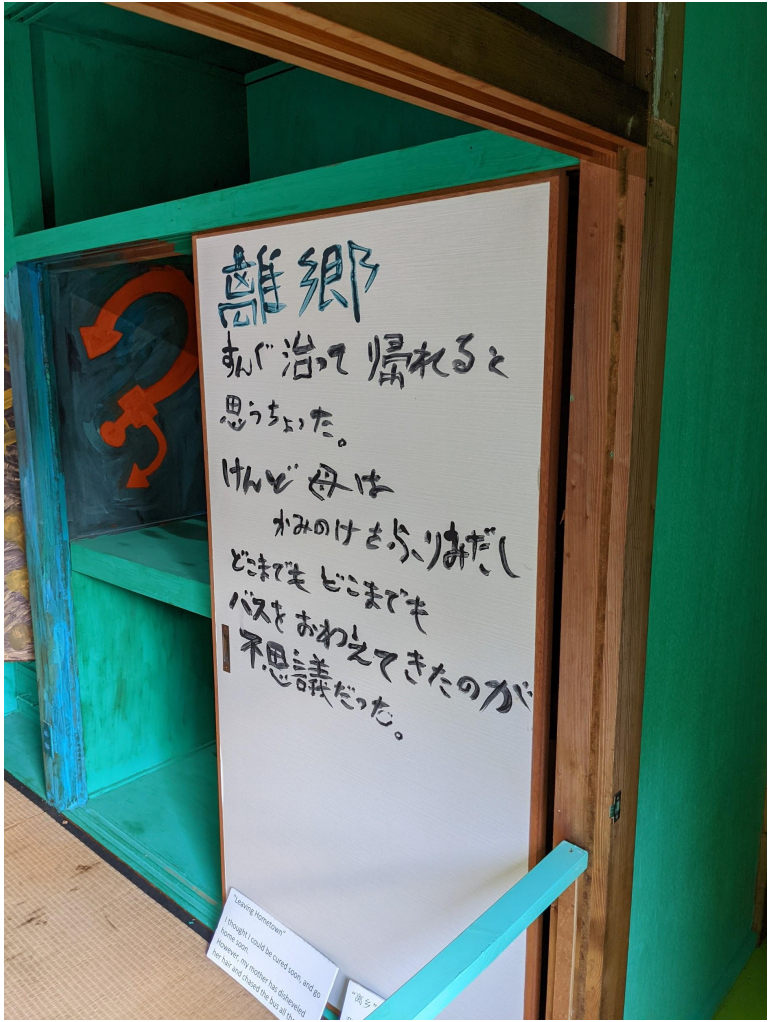
森の小径

入口

内部から見た空。
小さい庭。
閉ざされている。

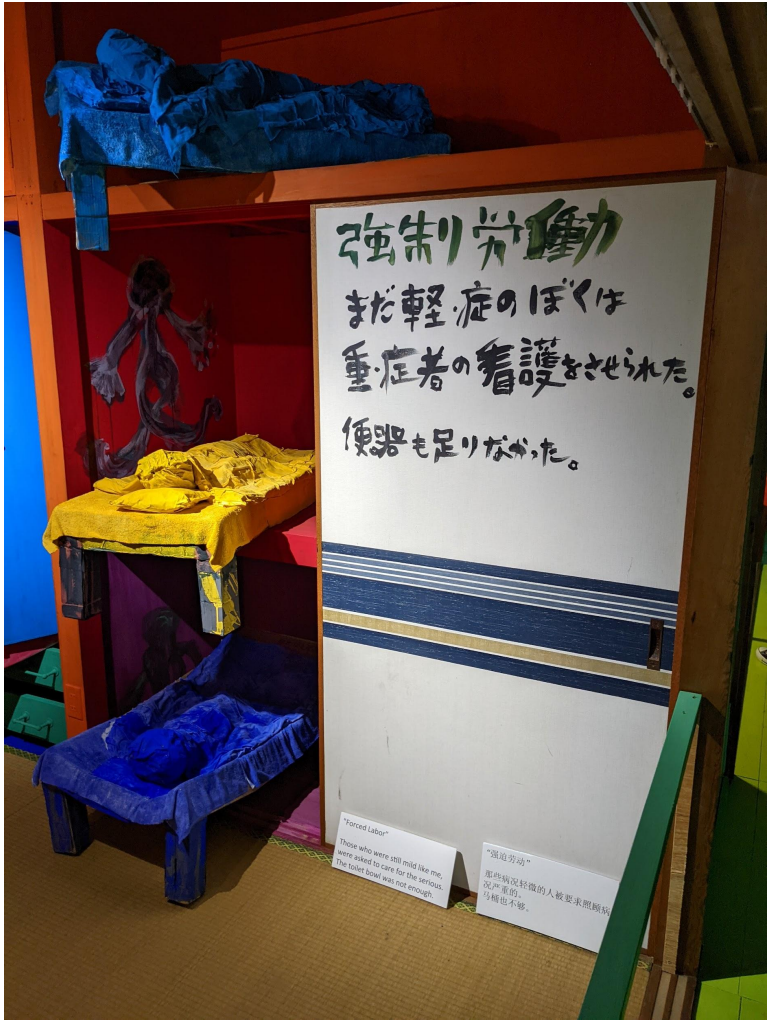
「Nさんの人生・大島七十年」
ー木製便器の部屋ー

入口


離郷
すぐ治って帰れると
思うちょった。
けんど母は
かみのけをふりみだし
どこまでも どこまでも
バスをおわえてきたのが
不思議だった。
"Leaving Hometown"
I thought I could be cured soon, and go
Home soon.
However, my mother has dishevelled
her hair and chased the bus all the

最初の部屋。

故郷から出発するバス


強制労働
まだ軽症のぼくは
重症者の看護をさせられた。
便器も足りなかった。
"Forced Labor"
Those who were still mild like me,
were asked to care for the serious.
The toilet bowl was not enough.
"强迫劳动"
那些病况轻微的人被要求照顾病
况严重的
马桶也不够。

悲しく残酷な記憶

悲しく残酷な記憶

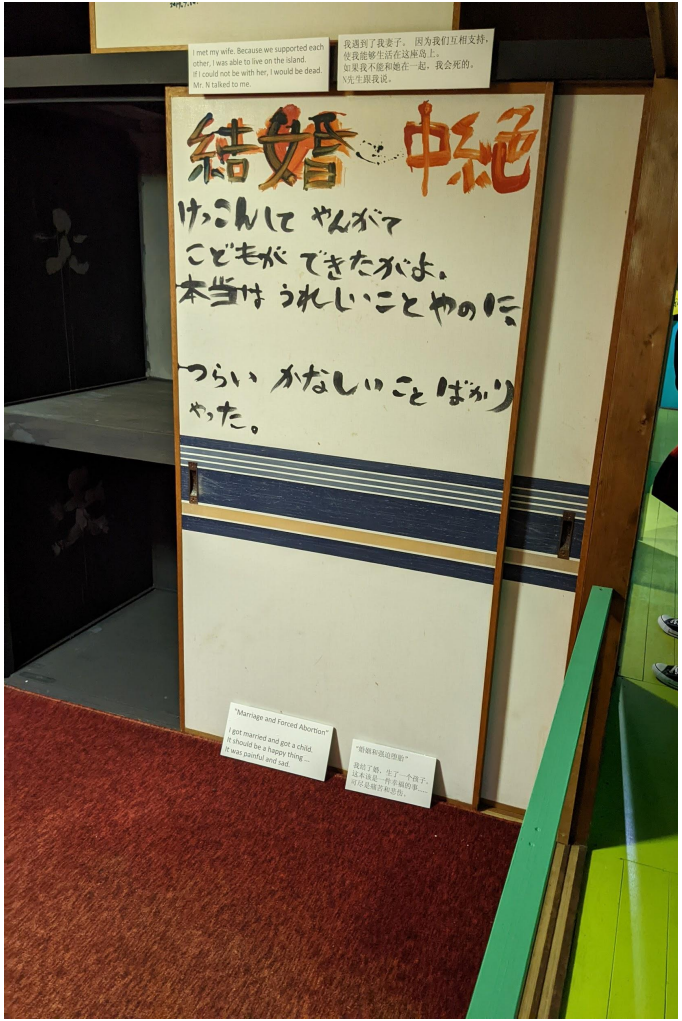
木製便器を再現

こんな感じで雑魚寝みたいな感じだったのだろう

木製便器

Wooden urinal made by Mr. N
Reproduced as instructed by Mr. N
N先生制造的木制小便器
按照N先生指示做的复制品

振り替えり撮った廊下



なんで、と言わざるを得ない
気持ちになる

実際に亡くなった人も、沢山いたのではないか。
Nさんが愛する人と出会えたのは、良かったと思う。

撮ったときは気づかなかったけど、海賊と人魚ですね

この部屋はこんな感じ

予防服
タタミの上で寝ゆうに、
全身予防服でかため
て、
土足で上ってくる。
ピンセットで クスリを
渡すし、こちらから
わたしたものは、
消毒液にひたして・・・・
"preventive clothes"
Although I was sleeping on a tatami mat, the doctors wore full-body protective clothes and they came in with their shoes. Have over the medicine with tweezers. The one delivered from here was immediately soaked in the disinfectant.
"防护服"
虽然我睡在榻榻米垫上，但医护人员穿着全套防护服，穿着鞋子从这里过来。用镊子把药传过来。从这里运送的东西立即浸泡在消毒剂中。

当時の医師の「診療」

当時の医師の「診療」

「光田さん」とは、らい予防法を推進した光田健輔。
じつは、廊下の奥には光田の胸像も置いてある。
このインスタレーションを見た者は、ほぼ全員が光田に嫌悪感しか持てないと思う。
しかし、振り返るとこの言葉があって、観覧者自身も自分の胸に手をあてることになる。

We are cured.
Dust (fungus) does
Mr. Mitsuda! Why
freedom for more t
我们治好了，尘埃
出来。
光田先生！为什么光
多年的自由！

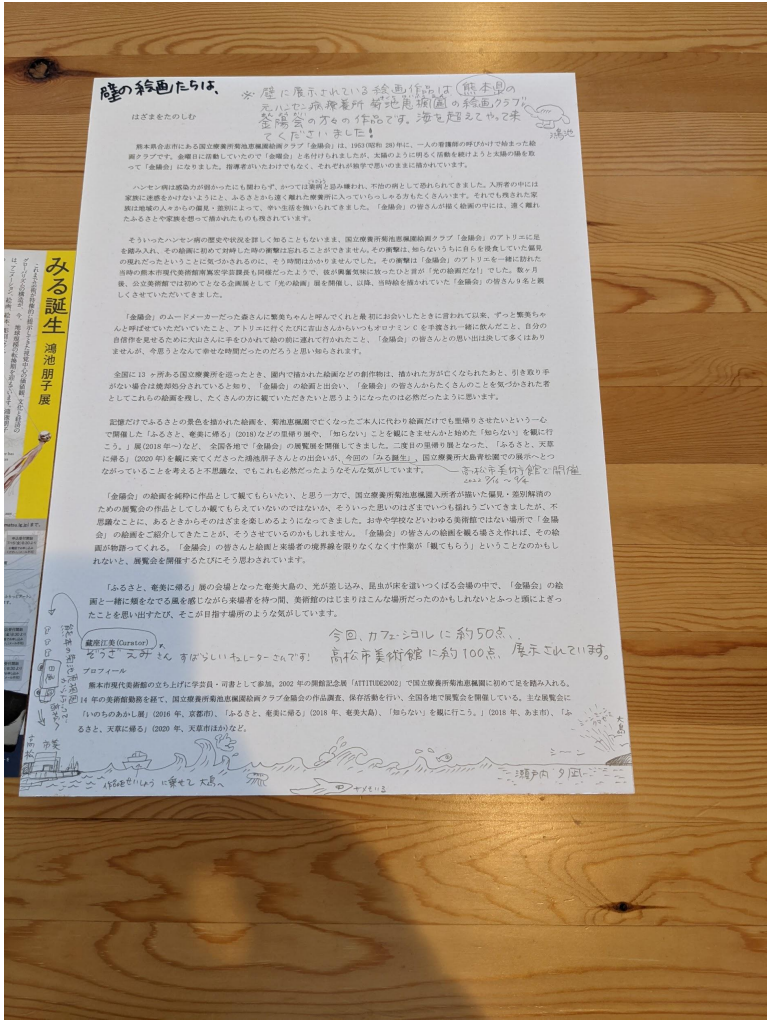
台所はこんな感じ

ドアノブ。
指がなくなった人の
ためだろう、金属製の
補助棒？がついている

作品ではないが、
象徴的な感じがした
足跡

空

カフェ・シヨル/物語る金の豚



壁の絵画たちは、

※壁に展示されている絵画作品は熊本県の元ハンセン病療養所菊池恵楓園の絵画クラブ「金陽会」の方々の作品です。海を越えてやって来てくださいました！

鴻池

はざまをたのしむ

熊本県合志市にある国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」は、1953(昭和 28)年に、一人の看護師の呼びかけで始まった絵画クラブです。金曜日に活動していたので「金曜会」と名付けられましたが、太陽のように明るく活動を続けようと太陽の絵を取って「金陽会」になりました。指導者がいたわけでもなく、それぞれが独学で思いのままに描かれています。

ハンセン病は感染力が弱かったにも関わらず、かつては業病と恐れ嫌われ、不治の病として恐られてきました。入所者の中には家族に迷惑をかけないようにと、ふるさとから遠く離れた療養所に入っていらっしゃる方もたくさんいます。それでも残された厚生省(現在の厚労省)の人々からの偏見・差別によって、辛い生活を強いられてきました。「金陽会」の皆さんが描く絵画の中には、遠く離れたふるさとや家族を想って描かれたものも残されています。

そういったハンセン病の歴史や状況を詳しく知ることもないまま、国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」のアトリエに足を踏み入れ、その絵画に初めて対峙した時の衝撃は忘れることができません。その衝撃は、知らないうちに自らを捕食していた偏見の現れだったということに気づかされるのに、そう時間はかかりませんでした。その衝撃は「金陽会」のアトリエを一緒に訪れた当時の熊本市現代美術館南雲栄芸課長も同様だったようで、彼が興奮気味に放ったひと言が「光の絵画だな!」でした。数ヶ月後、公立美術館では初めてとなる企画展として「光の絵画」展を開催し、以降、当時絵を描かれていた「金陽会」の皆さん1名を興しくさせていただいてきました。

「金陽会」のムードメーカーだった森さんに繁美ちゃんと呼んでくれと最初にお会いしたときに言われて以来、ずっと繁美ちゃんと呼ばせていただいていたこと、アトリエに行くたびに言山さんからいつもオロナミンCを手渡され一緒に飲んだこと。自分の自信作を見せるために大山さんに手をひかれて絵の前に連れて行かれたこと、「金陽会」の皆さんとの思い出は決して多くはありませんが、今思うとなんて幸せな時間だったのだろうと思い知らされます。

全国に13ヶ所ある国立療養所を巡ったとき、園内で描かれた絵画などの創作物は、描かれた方が亡くなられたあと、引き取り手がない場合は焼却処分されていると知り、「金陽会」の絵画と出会い、「金陽会」の皆さんからたくさんのことを気づかされた者としてこれらの絵画を残し、たくさんの方に観ていただきたいと思うようになったのは必然だったように思います。

記憶だけでふるさとの景色を描かれた絵画を、菊池恵楓園で亡くなったご本人に代わり絵画だけでも里帰りさせたいという一心で開催した「ふるさと、奄美に帰る」(2018)などの里帰り展や、「知らない」ことを観にきませんかと始めた「知らない」を観に行こう。」展(2018年~)など、全国各地で「金陽会」の展覧展を開催してきました。二度目の里帰り展となった、「ふるさと、天草に帰る」(2020年)を観に来てくださった鴻池朋子さんとの出会いが、今回の「みる誕生」。国立療養所大島青松園での展示へとつながっていることを考えると不思議な、でもこれも必然だったようなそんな気がしています。

高松市美術館で開催 2022 9/4 ~ 9/4

「金陽会」の絵画を純粋に作品として観てもらいたい、と思う一方で、国立療養所菊池恵楓園入所者が描いた偏見・差別解消のための展覧会の作品としてしか観てもらえていないのではないか、そういった思いのはざまでいつも揺れうごいてきましたが、不思議なことに、あるときからそのはざまを楽しめるようになってきました。おお中学校などいわゆる美術館ではない場所で「金陽会」の絵画をご紹介してきたことが、そうさせているのかもしれません。「金陽会」の皆さんの絵画を観る場さえ作れば、その絵画が物語ってくれる。「金陽会」の皆さんと来場者の境界線を限りなくなく十作業が「観てもらう」ということなのかもしれないと、展覧会を開催するたびにそう思わされています。

「ふるさと、奄美に帰る」展の会場となった奄美大島の、光が差し込み、昆虫が床を這いつくばる会場の中で、「金陽会」の絵画と一緒に想をなでる風を感じながら来場者を待つ間、美術館のはじまりはこんな場所だったのかもしれないとふっと頭によぎったことを思い出すたび、そこが目指す場所のような気がしています。

今回、カフェ・ショルに約50点、高松市美術館に約100点、展示されています。

藏座江美(Curator)
そうさ えみ さん すばらしいキュレーターさんです!

プロフィール
熊本市現代美術館の立ち上げに学芸員・司書として参加。2002年の開館記念展「ATTITUDE2002」で国立療養所菊池恵楓園に初めて足を踏み入れる。
14年の美術館勤務を経て、国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の作品調査、保存活動を行い、全国各地で展覧会を開催している。主な展覧会に「いのちのあかし展」(2016年、京都市)、「ふるさと、奄美に帰る」(2018年、奄美大島)、「知らない」を観に行こう。」(2018年、あま市)、「ふるさと、天草に帰る」(2020年、天草市ほかなど。

みる誕生 鴻池朋子展

ロンドンの大画面に、今、菊池恵楓園の人々の絵画が、天から降り注ぐ。
ロンドンブリッジ・ハウス・ギャラリー

傾斜をせいしゅう に乗せて 大島へ

キバをいる

瀬戸内 夕凪

全く情報を事前に入れていなかったが、
惠楓園金陽会の絵画が来ていた。

カフェ・シヨルは
土日祝のみテイクアウトで
営業なのでご注意

文旦サワー。
元患者さんがつけたものか

豚さん

遠足

海辺

阿蘇山

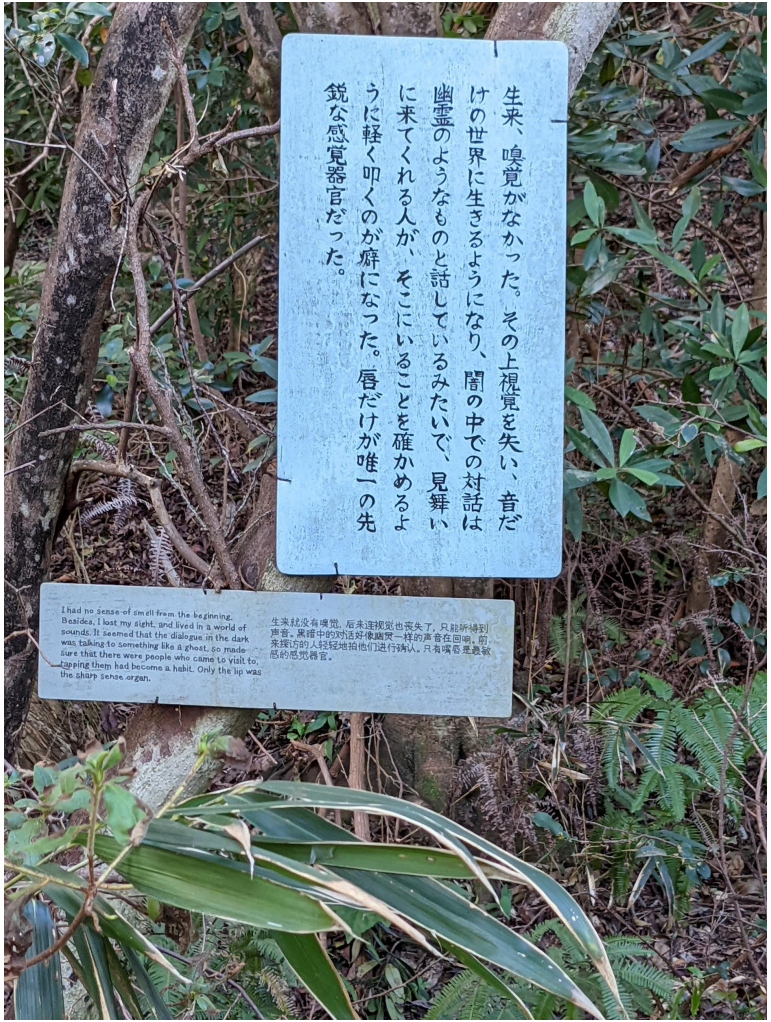
リングワンデルング

大島青松園史跡めぐり
相愛の道　雲井寮　つつじ亭
大島で 1931（昭和 6）年に結成された大島相愛青年団による山の道開拓事業で、 1933 年に造られた、 北の山の中腹を一周する相愛の道。 この道の途中に貞明皇太后（大正天皇の皇后）からの御恵の家として、 1936 年に建立された茶亭式建物が雲井寮と名づけられた。 年を経て古びたその家屋は、 大島青松園入所者自治会の出資金で 1978 年に建て替えられ、 その翌年につつじ亭と命名。 その東屋も 2017（平成 29）年の台風第 18 号により壊滅した。

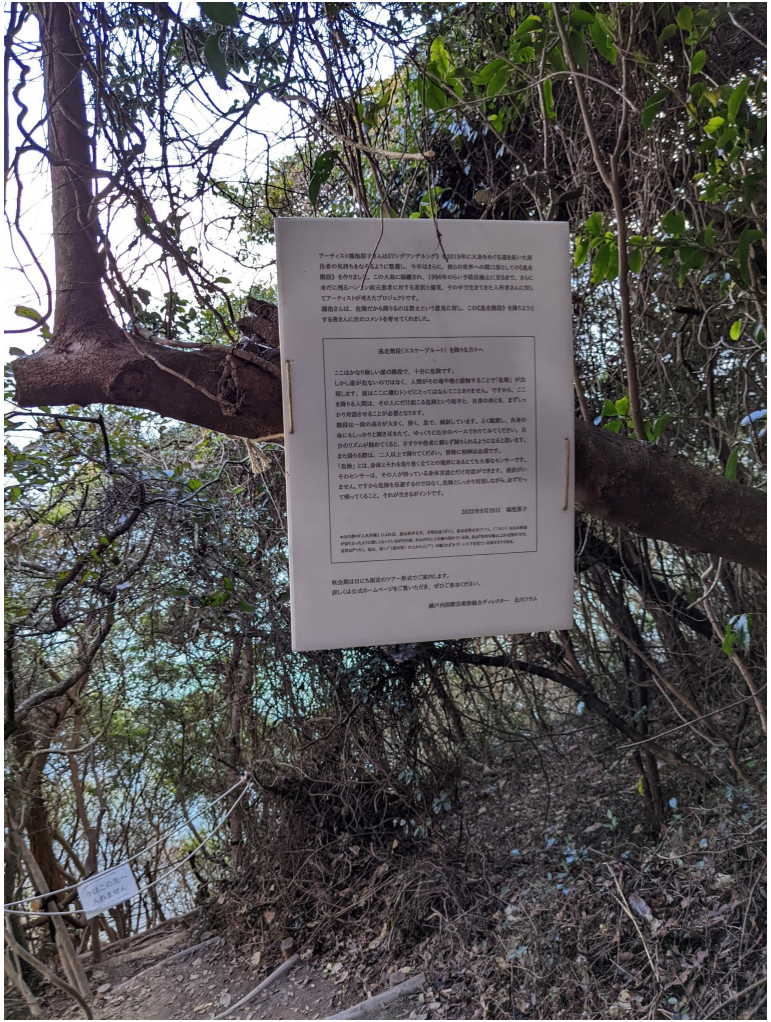
プレートが立っていた

患者さんたちが切りひらいた道、それ自体が作品となった

山道は視力の有無にかかわらず楽しい



この方は唇だけに触覚が残ったのだろうか。


アーティスト陽熊順子さんは《リングワンデルング》を2019年に大島をめぐる道を造った地
住者の気持ちをなぞるように整備し、今年はさらに、彼らの世界への間口部としての《逃走
階段》を作りました。この大島に隔離され、1996年のらい予防法廃止に至るまで、さらに
未だに残るハンセン病元患者に対する差別と偏見。その中で生きてきた人用者さんに対し
てアーティストが考えたプロジェクトです。
陽熊さんは、危険だから閉ざられは禁止という意見に対し、この《逃走階段》を開ようと
する皆さんに次のコメントを寄せてくれました。
逃走階段（エスケープルート）を開ける方へ
ここはかなり険しい道の階段で、十分に危険です。
しかし道が危ないのではなく、人間がその場や物と接触することで「危険」が出
現します。誰はここに誰ひとりとして二度はなんてことありません。ですから、ここ
を開ける人間は、その人にとって欠けてる危険という相手と、共身の体こを、まずしっ
かり対話させることがお要となります。
階段は一段の高さが大きく、狭く、急で、複雑しています。よく観察し、共身の
体にもしっかりと関を巡らせて、ゆっくりと自分のペースでのりてください。自
分のリズムが見付かってくると、ずずやや他者に頼らず降りられるようになると思います。
また降りる都は、二人以上で降りてください。背後に相棒は必須です。
「危険」とは、身体とそれを取り巻く全てその場所にあるとても大事なセンサーです。
そのセンサーは、その人が持っている身体深度とその対話ができます。通訳がい
ませんし、やすから危険を放置するのではなく、危険としっかり対話しながら、必ず行っ
て帰ってくること。それがたきるポイントです。
2023年8月29日　陽熊順子
※2019年の「人力手帳」によれば、最近相次ぎます、非常階段に潜り、国道非常階段を降りて、ドブ川に 地元の高齢
が現行 ヒ ハ ス に に 潜 ハ て ハ ら ま ら の 対 策 、 市 長 は 平 ハ ス に 人 の 重 の 者 が 行 ハ ら 場 所 、 色 が 常 常 常

美しい景色。しかし、この島に閉じ込められた人たち。

女児をつれた女二人、男児をつれた男一人。
どんな想いだったか、想像を絶していた。

コロナ禍で、すっかり物に触れなくなった。

シダの苗

アップダウンの激しい道
歩きやすい靴がお勧め

ところで、何を賭けたんだろうか？

竹林

花

地上に降ります。
リングワンデルング内にはスズメバチっぽいのもいたので、お気をつけください。
あと、イノシシの目撃情報もあるらしい ……。

キョウチクトウとスピーカー。
園内はスピーカーから音楽が流れており、たぶんですが
視力のない元患者さん向け。

納骨堂

納骨堂への坂道

ヤマモモの樹とプレート

お祈りしました

納骨堂からの景色

その他

キョウチクトウの華がまだ咲いていました。
原爆投下後の広島で、一番最初に復活した花は
キョウチクトウだったという話を思い出しました。

この高速船で高松と行き来します。
なお、16時30分の最終便を逃すと海上タクシーとかを使わないといけないらしい……

リングワンデルングの一枚。
大島で撮った中でも、特に好きなもの。

以上